

令和6年度 第2回 小櫃・上総地区公民館運営審議会 会議次第

日 時 令和6年9月10日(火)
午後2時30分から
午後4時30分終了予定
場 所 上総公民館 多目的ホール

1 開 会

2 三橋委員長あいさつ

3 石井館長あいさつ

4 報 告

(1) 報告事項その1 各公民館事業の中間報告(4~8月)

(2) 報告事項その2 文化祭について

5 協 議

・「審議テーマにおける取組・事業の報告並びに評価」について

(1) モデル事業への評価について

(2) 審議テーマへの落とし込み

※「審議テーマ:地域活性の拠点としての公民館運営・事業」

6 その他

(1) 令和8年「20歳のつどい」について

(2) 君津地方公民館運営審議会委員連絡協議会(公運審連)の動きから

(3) 小櫃公民館開館50周年記念事業について

7 閉 会

令和6年度 第2回小櫃・上総地区公民館運営審議会
資 料

小 櫃 公 民 館
上 総 公 民 館

令和6年度小櫃公民館事業中間報告（4～8月）

1 コミュニティ活性化事業

(1) 利用者懇談会 **重点目標③** 7月16日(火) 昼の部/夜の部 参加者:21名

- ・「小櫃公民館快善計画～ちょボラの会の活動紹介～」
- ・「小櫃公民館にこんな空間があったらいいな・こういう場がほしい」

(2) **ちょボラの会** **重点目標①**

※4月8日(月)公民館ロビーに“ふらっとカフェ”の設置

- ①4月26日(金)図書コーナーについて図書館司書のアドバイス
- ②5月23日(木)上総小櫃中学校生徒会会長の参加あり
- ③6月25日(火)小櫃上総地区公民館運営審議会委員との懇談
- ④7月30日(火)利用者懇談会からのフィードバック、ふらっとカフェについて等
- ⑤8月30日(金)おらが市説明会、チャリティーバザーの検討

(3) 第50回小櫃地区文化祭 **重点目標③・⑤** 10月26日(土)・27日(日)

①第1回企画会議 5月24日(金)

- ・今年度利用者連絡協議会役員、前年度部門長を招集。第1回実行委員会へ向け
て開催要綱案、役員案等話し合い

※6月6日(木)文化祭参加募集チラシを毎戸配布

②第1回文化祭実行委員会 7月26日(金)

- ・開催要項・役員・部門長の承認、日程確認ほか

(4)地域団体連携事業 **重点目標③** から

①「長谷川ホタル谷フェスタ」7月6日(土) 来場者:268名

※国土交通省主催令和6年度「手づくり故郷賞(一般部門)」応募中

②「小櫃の元気なこどもを育てる会」総会:6月2日(日) 出席者:58名

2 青少年教育事業

(1) 子ども会等関係者会議 **重点目標②** 5月30日(木) 参加者:17名

(2) こどもひろば **重点目標②** 夏休み編

- ①公民館でミニシアター 7月23日(火)、8月27日(火)
- ②みんなで中央図書館へGO 7月31日(水) ※小櫃小学校学童クラブと連携
- ③夏休みゲーム大会! 8月2日(金)
- ④染め物に挑戦してみよう! 8月8日(木)
- ⑤ミニ縁日&みずあそび 8月23日(金) ※子育てサロン「おびつな」と合同開催

(3) 子どもキャンプ **重点目標②**

・稲ヶ崎キャンプ場へ宿泊 7月20日(土)・21日(日)

- ・7月7日(日)にオリエンテーション実施。第1日目は鴨川市の前原海水浴場にて
海水浴。移動は生涯学習バス。

※上総公民館と合同開催

※参加者34名→小学生21名(4年生9名、5年生10名、6年生2名)、
青少年相談員11名、青少年相談員 OB1名、公民館職員4名

3 課題解決学習推進事業

(1) 「小櫃まるごと博物館」構想事業 **重点目標④**

①第1回運営会議 4月16日(火)

②第2回運営会議 6月12日(水) 「金のすず」にて上総掘りの資料等見学

※作成中動画3本

(2) おびつスマイルサロン「いーね！」 **重点目標③** 運営委員:16名

※「おびつスマイルサロンいーね運営委員会」により、毎月第3金曜日の午後に開催(4月から8月まで5回実施済み)。毎回、「頭と体のストレッチ」、「ちょっとためになる時間」、「楽しくおしゃべり」、「みんなで歌いましょう」で構成。事前申し込みは不要。3か月ごとにプログラム内容を掲載したチラシを作成・配布している。

(3) 介護家族のひろば **重点目標③** 6月6日(木) 参加者:5名

※対象を「認知症等のご家族を介護されている方」とし、介護者同士が情報交換し、気持ちをさらけ出せる場を創出し、介護に携わる当事者の心のケアを図る(ピア・カウンセリング)。

(4) 高齢者学級(ほほえみ学級) **重点目標③**

※学級生登録者29名、うち新規登録者4名。6月から2月まで9回実施予定。

①6月24日(月) 開級式&レクリエーション

②7月19日(金) まちづくりふれあい講座「長板中形 松原伸生の伝統と展開」

③8月23日(金) スマイルサロン「いーね！」合同開催 “笑って健康 落語寄席”

(5) 小櫃地区防災講座 **重点目標③** 6月16日(日) 57名参加

・「災害に備えるために」 講師:危機管理課職員

・「君津市避難行動要支援者避難支援計画について」 講師:厚生課職員

※自治会連絡協議会と連携

※体験学習「一次救命明処置」 講師:君津市赤十字奉仕団

4 その他

(1) 開館 50 周年事業実行委員会 設立:令和5年7月6日(木)

※これまでに理事会、全体会をそれぞれ8回実施。理事会のメンバーは記念誌編集委員会・記念式典委員会の各委員長、公民館利用者連絡協議会役員7名で構成。全体会は、記念誌編集委員会と記念式典委員会の各委員、第50回小櫃地区文化祭実行委員会役員、顧問6名の総勢36名で構成。

(2) 開館 50 周年記念冠事業

①11月2日(土)小櫃出身の世界的パティシエ・菅原智大さん特別講演会

②令和7年1月26日(日)里山コンサート ほか

令和6年度上総公民館事業中間報告（4～8月）

1 コミュニティ活性化事業

(1) 上総公民館だより

- ・ 6月20日（木） 第182号の発行
令和6年度事業計画ほか

(2) 上総地区文化祭

- ・ 5月9日（木）企画会議（前年度役員会）
第1回実行委員会の議案の確認ほか
- ・ 5月28日（火） 第1回実行委員会
基本方針及び日程の確認・役員選出・部門別会議ほか
- ・ 8月20日（火） 第2回実行委員会
第1回実行委員会報告、文化祭の主な行事・計画、共同作業（会場づくり）、当日の運営・後片付け・反省会、「実施報告書」の提出、子ども向け企画への協力ほか

2 青少年教育事業

(1) 子どもキャンプ

- ・ 7月20日（土）～21日（日）
富津公園ジャンボプール・稲ヶ崎キャンプ場・上総公民館
参加者28名（小学生20名・青少年相談員8名）
1日目：富津公園ジャンボプール・テント設営・夕食作り・キャンプファイヤー（一部を小櫃地区と合同で実施）
2日目：朝食作り・テント片付け・グミ作り・昼食

(2) 公民館 De チャレンジ

- ・ 8月9日（金）講座「自分だけの虫の王様を作ろう！」を実施
臨床美術士を講師に招き、カブトムシやクワガタの工作を行った。
（小学生4名参加）
- ・ 8月22日（木）講座「パンづくりに挑戦！」を実施
パンづくり教室の講師を招き、手軽にできるパンづくりを学んだ。
（小学生5名参加）

3 課題解決学習推進事業

(1) 高齢者学級（さわやか学級）

- ・ 6月6日（木）開級式・オリエンテーションを行い、今年度の学級長など役員を決定。講座は「ストレッチ&体操で健康増進」を実施
（参加者：19名）
- ・ 7月10日（水）生涯学習バスを利用した移動学習「千葉県立中央博物館（千葉市）」を実施（参加者：19名）
- ・ 8月9日（金）講座「国民健康保険と後期高齢者医療保険制度」を実施
（参加者：12名）

(2) 上総子どもふれあい教室

- ・ 7月25日（木）移動学習「日本赤十字社千葉県支部」と「千葉市科学館」を見学。「日本赤十字社千葉県支部」の義肢製作所では義肢を装着し歩行するという貴重な体験をした。（参加者：子ども12名、大人4名）
- ・ 8月30日（金）講座「みんなで遊ぼう！」を実施予定
君津亀山青少年自然の家から講師を招き、友達づくりのヒントを学ぶ。

(3) 地域住民交流教室

- ・ 8月2日（金）講座「発達障害と特性に応じた配慮」を実施
芳賀 茂氏（アビリティーズジャスコ木更津センター管理者）をお招きし、発達障害の種類と特性に応じた配慮について、就労継続支援事業所の業務での経験等を交えながら、分かりやすくお話をいただいた。
（参加者：12名）

(4) みんなイキイキ！食の健康教室

- ・ 7月2日（火）第1回 高血圧の基礎知識
講師：秋元 一浩氏、安西 尚美氏（君津市高齢者支援課）。高血圧が起きる仕組みや日常生活でできる予防や改善の方法について学んだ。
（参加者：4名）
- ・ 7月30日（火）第2回 孫や子と一緒に調理実習
講師：君津市食生活改善推進員（ヘルスマイト）6名を招き、タコライス他1品を調理し、減塩について考え、実習する機会や、祖母と孫が交流する機会となった。
（参加者：9名）

4 分館事業

(1) 松丘分館事業

○松丘地区防災講演会

- ・ 6月23日（日）君津市危機管理課職員及び消防署松丘分署の職員を講師に招き、近年頻発する地震・風水害の備えや、突発的なケガの対応方法等を学んだ。（参加者：39名）

○夏休み子ども茶道教室

- ・ 8月3日（土）裏千家 准教授 鎌田宗茂氏を講師に招き、上総小の児童を対象に、茶道の歴史や礼儀作法を学んだ。（参加者：4名）

○松丘ふれあいまつり

- ・ 7月17日（水）第1回実行委員会
基本方針及び日程の確認・役員選出ほか
- ・ 8月28日（水）第1回役員会
企画確認及び第2回実行委員会の議案確認

(2) 亀山分館事業

○チェーンソー・刈払機安全・長持ちのヒケツ講習会

- 6月16日（日）葉光舎の光城篤史氏に講師を務めていただき、チェーンソー・刈払機の安全な使い方や長持ちさせるための方法をお話いただいた。（参加者：11名）

○亀山ふるさとまつり

- ・ 5月31日（金）事前打ち合わせ会議（前年度役員会）
第1回実行委員会の議案の確認ほか
- ・ 6月14日（金）第1回実行委員会
基本方針及び日程の確認・役員選出・部門別会議ほか
- ・ 7月12日（金）実行委員会役員会
企画確認及び第2回実行委員会の議案の確認
- ・ 8月9日（金）第2回実行委員会
全体計画の進捗状況、共同作業及び当日までの動き、当日の運営・分担についての確認ほか

5 その他

- ・ 5月23日（水）君津青葉高等学校と上総ロータリークラブ、まちなみ塾などの地域団体の方と一緒に上総地域交流センターの花壇に植栽を行う「花いっぱい運動」を実施。（参加者：15名）

令和6年度小櫃公民館地区文化祭について

1 日程

- ・第1日目：令和6年10月26日（土）午前9時から午後4時まで
※小櫃公民館開館50周年記念式典を開催（午前10時から11時まで）
- ・第2日目：令和6年10月27日（日）午前9時から午後3時まで

2 企画等

- ・テーマ：「出会い ふれあい 学びあい ～New小櫃に Come ON～」
- ・4 部門：（1）展示部門【13団体】←昨年18団体
（2）発表部門【8団体/個人13】←昨年5団体
（3）催し物部門【2団体】←昨年4団体 ※“体験部門”から改称
（4）販売部門【7団体】←昨年3団体
- ・特別企画等：
 - （1）公民館ロビーにおいて「小櫃公民館開館から50年のあゆみ」の展示
 - （2）『小櫃公民館開館50周年記念誌』掲載作品「小櫃の未来」の紹介
 - （3）マスコットキャラクター応募作品の紹介
 - （4）公民館駐車場および中庭において、開館50周年記念冠事業「ORAGA ICHI(おらが市)」開催(文化祭2日目のみ)

※なお、文化祭1日目の式典において、
『小櫃公民館のあゆみ』の映像上映、
記念誌 掲載分「小櫃の未来」から数作品の朗読（本人）、
マスコットキャラクター最優秀作品の表彰 を実施予定。

令和6年度 公民館文化祭について

1 第52回上総地区文化祭

(1) 日程

- ・第1日目：令和6年10月19日（土） 午前9時30分～午後4時まで
- ・第2日目：令和6年10月20日（日） 午前9時30分～午後3時まで

(2) 企画等

○テーマ「つながる ひろがる 上総の文化」

○参加サークル・団体数

館内展示体験部門	25
館外（模擬店など）部門	8
ホール舞台（音楽発表会含む）部門	13

○内容

- ・各サークル・団体等による館内展示（お花、絵はがき、手工芸、書道、絵画など）
- ・音楽・芸能等の発表（大正琴、踊り、ダンス、詩吟、合唱、カラオケなど）
- ・催し物（ふるさとかるた大会、ペタンク・ポッチャ体験、黒文字楊枝製作体験、健康測定コーナー、落書きコーナーなど）
- ・飲食等の模擬店（焼きそば、焼き鳥、フライドポテト、から揚げ、たこ焼き、ポップコーン、コーヒー、クロワッサン、手打ちそば、豚汁、野菜、米、花苗など）
- ・上総公民館による特別企画（上総地区で頑張る消防団紹介）、子ども向け企画（スタンプラリー、しおり作り）

2 第19回松丘ふれあいまつり

(1) 日程

- ・令和6年11月9日（土） 午前9時30分～午後3時まで

(2) 企画等

○参加サークル・団体数

館内（展示・体験、発表・交流の集い）部門	18
館外（模擬店・フリーマーケット）部門	12
スポーツ広場部門	2

○内容

- ・各サークル・団体等による館内展示（生け花、盆栽、手工芸、など）、
- ・音楽・芸能等の発表（大正琴、踊り、ダンス、カラオケ、空手、ピアノ連弾、大戸見の神楽など）
- ・催し物（ペタンク体験、ドローン空撮、モルック大会など）
- ・飲食等の模擬店・フリーマーケット（焼きそば、焼き鳥、豚汁、そば、農作物、手作り作品など）
- ・実行委員会による子ども向け企画（ハロウィンパーティー）

3 第21回亀山ふるさとまつり

(1) 日程

- ・令和6年10月5日(土) 午前9時30分～午後2時まで

(2) 企画等

○参加サークル・団体数

発表・交流部門 5

展示・体験、模擬店部門 12

○内容

- ・各サークル・団体等による館内展示(キルト作品、創作作品、園児児童作品など)
- ・音楽・芸能等の発表(合唱、大正琴、お囃子と神楽舞、真空管アンプ音楽など)
- ・催し物(ペタンク体験、竹かごづくり体験、長板中形出前講座、ふれあいサロン、健康測定コーナーなど)
- ・飲食等の模擬店(焼きそば、焼き鳥、豚汁、コーヒーなど)
- ・実行委員会による企画(みんなで歌おう♪)
- ・実行委員会による子ども向け企画(スリッパ飛ばし大会)

小櫃公民館モデル事業①「ふらっとホーム事業」外部評価まとめ

1. 見通し・計画

(1) 審議テーマに対して、事業の目的や課題設定は適切か

【評価】 4：5名 3：1名 2：0名 1：0名 平均：3.83

4

- ・地域住民が自ら楽しみつつ、ボランティア活動を通じて公民館の環境改善の一端を担う機会を設ける取り組みは、施設が再整備されるタイミングで地域の公民館としてのあり方や運営方法を考え、見出していくうえで重要な資産になると思う。
- ・用がなくても来られる/来たいと思える公民館を課題設定にしていることは、非常に良いことだし、理想です。どのように地区住民を公民館に来てもらうかの工夫が見られるように思います。又、夏休みに児童生徒の来やすい様にしていることが評価されます。
- ・アンケートや利用者の意見が反映されている。“快善”という言葉が分かり易く良かった。
- ・地域活性化の拠点としては公民館と言う場所は適切だと思います。しかし普段公民館を利用しない人が8割ほどいるというアンケート結果が出ている。
- ・すぐに効果や結果は出なくても、まずは一歩始める事がスタートになる。公民館に行く度にロビー周辺が明るい雰囲気になってきていると実感する。メンバーが楽しみながらゆるく無理なく活動できたらそこにコミュニティが生まれる→公民館のサポートに感謝です。《メンバーの思い》に「力になりたいと思う」とあって嬉しい気持ちになった。

3

- ・図書室の再設定やサークル「ちょボラの会」会員に対する広報活動の徹底。

(2) 対象者の設定や周知方法は適切か

【評価】 4：1名 3：5名 2：0名 1：0名 平均：3.17

4

- ・子供たちから大人までが主体となり、各ワークショップを開きながら、行っていることは、評価できますし、中学生から聞き取りを行うことで、公民館事業に関心を持たせている。

3

- ・参加者のアイデアと企画、そして実践により、取り組みの姿が徐々に地域に浸透していくことで、地域住民が期待をもって自ら参加して来る可能性を含んでいる。
- ・周知の方法に努力がみられる。
- ・懇談会記録の”子どもを巻き込んで…”という意見から、小学校高学年～高校生にも発信してはどうか。
- ・ボランティア活動と言うことで、本来ならば周知、募集で自ら参加することが望ましいとは思いますが、公民館からの声掛けなど直接の誘い方が主だと思います。ちょボラの活動

が広く知れ渡り自ら参加してくれる人が増えていくことを願っています。今後公式LINEでも周知の予定とありますが、先日うかがった際にはLINEの登録者もまだまだ少なかったようなので増えていくことに期待しています。

- ・若いメンバーが口コミで集まっているのか？個人的には回覧板見るくらいでは周知されている感をあまり感じない。最近、手書きのおしゃれなチラシなどを見る機会もあって人よりもチェックしているつもりではいますが”。

2. 実施内容

(1) 目的達成に資する内容になっているか (内容の充実度)

【評価】 4：4名 3：2名 2：0名 1：0名 平均：3.67

4

- ・小櫃公民館の再整備に対する地域の期待や要望を踏まえたうえで、参加者がアイデアをだしてできることから実践している。この取り組みの姿が徐々に地域に浸透していくことで、公民館を住民が自ら利用しやすい施設に作り上げていく可能性を含んでいる。
- ・小櫃公民館等再生整備にかかるアンケート調査において、利用頻度についてほとんど・全く使わないがとの回答が46.8%とたまにしか使わないが31.2%と8割を占めていることで独自のちょボラの会の活動することで、公民館に興味を持たせるようにしている。
- ・昨年度からの短期間で、様々な取り組みが見られた。
- ・建て替えなどのハード面ではなくソフト面からの快善ということで明るい図書コーナー、カフェの設置、ボードゲームの購入、授乳スペースの確保と様々なアイデア、実施をされていると思います。

3

- ・努力のあとがみられる。
- ・何をもって達成とするのかわからず評価が難しいけど、公民館ロビーは明るくなった！と実感する。図書室(自習スペース)は次回覗いてみます。頻繁に公民館に行く人しか感じられないのがもったいない。

(2) 講師の選定や協力者・関係者の広がり適切か

【評価】 4：1名 3：4名 2：1名 1：0名 平均：3.0

4

- ・図書コーナーの司書アドバイスの他は、現在の協力者は元々知り合いだった方々や、公民館利用者がほとんどだったと記憶しております。ちょボラ以外にも色々活動している方もいらっしたので、これからの幅広い繋がりが増えていくと良いなと感じました。

3

- ・1の(2)と同じ (参加者のアイデアと企画、そして実践により、取り組みの姿が徐々に地域

- に浸透していくことで、地域住民が期待をもって自ら参加して来る可能性を含んでいる。
- ・中学生の保護者を中心として、組織ができているのかなと思いました。多種多様の活動に広がりはできてきていると感じている。
 - ・今の状態がベストではないと思う。客観的な立場で見られるよう、地区内外からの協力者の意見を取り入れてはどうか。
 - ・既存の「ブックママ」を巻き込んだ活動は良いと思う。少数メンバーで活動量が増えすぎ負担にならないことを願います。

2

- ・不明

3. **振り返り**

(1) 事業目的は達成されているか (参加者の反応などを踏まえて)

【評価】 **4**: 0名 **3**: 5名 **2**: 1名 **1**: 0名 **平均**: 2.8

3

- ・2の(1)と同じ(小櫃公民館の再整備に対する地域の期待や要望を踏まえたうえで、参加者がアイデアをだしてできることから実践している。この取り組みの姿が徐々に地域に浸透していくことで、公民館を住民が自ら利用しやすい施設に作り上げていく可能性を含んでいる)。
- ・参加者は少数であるが、利用者は増加していると思われる(図書室の再設定)。
- ・参加者に物足りなさが見られるが、前向きな反応が多く見られた。
- ・過去、高校生による実績はあるようですが、大人版ちょボラの活動はまだまだ始まったばかりの事業だと思いますし、すぐに達成されるような事業でもないと思います。様々なアイデアや実施可能な事柄もこれからたくさん出てくることと思います。継続的な事業として、これからも快善に期待しております。
- ・Q5の感想と同じ。

2

- ・この内容で、どこまでが達成であるかについては、評価しづらいです。

(2) 学習・活動の深まりや新たな活動への展開が期待できるか

【評価】 **4**: 3名 **3**: 3名 **2**: 0名 **1**: 0名 **平均**: 3.5

4

- ・子供たちに公民館に来てもらうことで、公民館事業に関心を持たせている。
- ・期待できる。
- ・すでに中学生からの聞き取りが行われているようですが、上総小櫃中学校が近くにあるの

でアンケートなどが実施出来たら、大人だけでは考えつかないようなアイデアも出てくる可能性があるのではないのでしょうか？

3

・1の(2)と同じ(参加者のアイデアと企画、そして実践により、取り組みの姿が徐々に地域に浸透していくことで、地域住民が期待をもって自ら参加して来る可能性を含んでいる。)2の(1)と同じ(小櫃公民館の再整備に対する地域の期待や要望を踏まえたうえで、参加者がアイデアをだしてできることから実践している。この取り組みの姿が徐々に地域に浸透していくことで、公民館を住民が自ら利用しやすい施設に作り上げていく可能性を含んでいる)。

- ・活動自体があまり知られていないので、広報活動の徹底が必要と思われる。
- ・新しい若いメンバーの発想力と行動力に期待したい(できる事は協力したい)。

4. 総評

- ・地域活性化の拠点としての公民館運営・事業のあり方を見出す取り組みを進めるためには、地域活性化につながると思われる地域の動き、人、団体・組織などについて情報を収集して整理し、有効または可能性のあるものを見つけ出して公民館とのつながりをつくることから始めて、その先で公民館とともに同じ方向を向いてそれぞれの立場で役割を分担しながら相互に支え合って地域活性化に向けた取り組みを進めてもらえるような仕組みが見いだせればよいと思う。
- ・全体的に評価をすることが、難しいです。各公民館でも地域市民を公民館に足を運んでもらうことが一番の悩みだと思いました。
- ・活動に対する広報が少ないと思われる。各地区の回覧板等の利用では不十分と思われる(口頭による活動必要)。参加者を学生だけとする意見交換の場を設けたらどうか。大人は除く。
- ・”用がなくても来られる”というのは、公民館の立地から難題だと思う。気持ちがワクワクする”用がある”公民館を目指し頑張りたい。 ”緩やかなつながり”にも期待している。
- ・以前参加した講義で今の大学生などは公民館が何をする場所なのか、公民館の存在自体も分からない学生が多くいるというようなことを聞いたことがあります。そんな中で自分たちで公民館をより良く、誰でも気軽に来られる公民館づくりはとても大事なことだと思います。活動メンバーの中には、少しずつ思いが形になるのが楽しいと感じていたり、まだよく分からないが、手伝えることは色々やりたいと思っているメンバーもいるのでこれから益々より良い環境になるのではと思います。『ちょこっと』の範囲を出来るだけ超えないように、若い世代も巻き込んで継続的な事業として出来たら素晴らしいことだと思います。
- ・せっかくスペースが出来たのなら、活動の成果や活用のPRをかねて不定期のカフェやサロンを企画したらどうだろう？平日は高齢者対象になってしまうと思うけど地区社協やシニアクラブ、土日は青少年…とか巻き込んで。

小櫃公民館モデル事業②「いきいきシニアプロジェクト」外部評価まとめ

1. 見通し・計画

(1) 審議テーマに対して、事業の目的や課題設定は適切か

【評価】 4：6名 3：1名 2：0名 1：0名 平均：3.86

4

- ・地域住民が集える場所でもある公民館に日々の生活で生じる心の動揺を落ち着かせリカバリーできる機能が備われば、地域の人々の心の拠点として重要な役割を果たせる。そのような可能性を見出すモデル事業であると感じた。既存事業の中で参加者の発言から必要性に気づいた事柄をテーマとして、関係者や関連する機関と連携して事業の企画、試行、広報と段階的に準備を進めることで事業の目的や課題が整理されたのではないかな。
- ・介護家族のひろばでは、今現実的に、父母の介護に困っている家族へ、視点を向けていることは、非常に評価できると思います。公民館活動の中で満足度が非常に高いです。
- ・高齢者だけではなく、介護家族が集える場として各団体が支援しており、事業の目的等、課題設定は適切と思われる。
- ・周南公民館の事業をモデルに、小櫃地区の実状を踏まえて、協議を重ねたことで、目的や課題が生み出されていた。
- ・いきいきシニアプロジェクト『介護家族のひろば』は派生事業との事ですが、現在日本において高齢化が進み、シニアと呼ばれる方々の人口比率が多くなっている現在では避けては通れない社会問題だと思います。いきいきと元気に暮らしている人もいれば、介護を受けながら暮らしている方も多くいます。その中で、介護する側の家族にサポートを当て、悩みのはげ口となる今回の事業は良いものだと思います。
- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】ほほえみ学級、おびつスマイルサロンいーね、介護家族のひろば等、その他のサークルとの合同事業を設定している。

3

- ・認知症、介護問題は誰にでも起こりうる事。当事者として困っている方の助けになれば良い事業になっていくと思うので継続してほしい。

(2) 対象者の設定や周知方法は適切か

【評価】 4：5名 3：2名 2：0名 1：0名 平均：3.71

4

- ・既存事業の中で参加者の発言から必要性に気づいた事柄をテーマとしたことで、その時点で既に関心のある人が存在し、更に関係者や関連する機関と連携して事業の企画、試行、広報と段階的に準備を進めたことで段階的に周知が図られると思う。テーマとその内容からして参加者を積極的に募るものではないので、参加してよかったという内容を常に模索しながら継続的に事業を進めていくことで参加者が集うのではないかな。

- ・自治会回覧による周知だけでなく、実態を把握している民生委員児童委員協議会説明をして協力してもらっている。
- ・適切である。
- ・今回の対象者は介護に悩みをもつ人が集まり、プライベートなことも人に聞いてもらう事が目的のため、周知方法も他の事業とは違い考えられた方法だとおもいます。
- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】適切であると思われる。

3

- ・対象者の設定は適切と思われるが、認知度は低いと思われる。
- ・個人情報ほか家庭内のデリケートな問題等大勢集めて成功という事業ではないので、自治会回覧板、直接声かけ方法で今回は良かったのではと思う。

2. 実施内容

(1) 目的達成に資する内容になっているか (内容の充実度)

【評価】 4: 6名 3: 1名 2: 0名 1: 0名 平均: 3.86

4

- ・既存事業の中で参加者の発言から必要性に気づいた事柄をテーマとしたことで、「介護者同士が集う場をつくり、心のケアを図る」という目的が明確に示されている。
- ・非常に難しい問題に、取り組んでいることは、良いことである。
- ・各団体が支援、協力しており、充実していると思う。
- ・専門家からの話題提供、介護についての知識を交ぜながらの介護トークは、参加者に安心感を与え、居心地の良い空間になった。
- ・『自分だけじゃないと思える場所も必要』との意見から生まれた派生事業だと思いますので、内容を見る限り色々な話が出来たのではないのでしょうか。
- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】充実していると思う。

3

- ・すぐに問題解決につながる集まりではないので評価は難しい。家族の病状の違い、負担感、みんなに話したい人、話したくない人と個人差もあって一概に参加者にとって有意義な集まりになったとは言えないが「参加して良かった」とひとりでも思ってもらえれば…。

(2) 講師の選定や協力者・関係者の広がり適切か

【評価】 4: 5名 3: 2名 2: 1名 1: 0名 平均: 3.71

4

- ・ケアマネージャーや介護者ネットきみつを迎え介護の話題を話会うことで、父母の介護に困っている家族へ理解が広がっている。
- ・適切と思われる。

- ・企画会議から、連携がとれていて良かった。
- ・講師や知識のある方が一緒に悩みを聞いてくれる中で、素人では知らなかった事も多く知る機会になったのではないのでしょうか。いろいろな方法を知ることが出来るとの意見もあるようですし、ネットだけだと情報過多になってしまう、との意見もありました。直接意見交換が出来る事で、自分に必要な情報が得られる機会となったのではないのでしょうか。
- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】多方面に声掛けをしており、広がりは適切と思われる。

3

- ・企画の段階から関係者や関連する機関と連携して段階的に準備を進めて事業を展開していると思う。参加してよかったという内容を常に模索しながら事業を継続的させるためには、更に関係者や関連する機関と連携を深める必要がある。
- ・和やかな雰囲気を作れるメンバーであったと思う。

3. **振り返り**

(1) 事業目的は達成されているか (参加者の反応などを踏まえて)

【評価】 **4**: 3名 **3**: 4名 **2**: 0名 **1**: 0名 **平均**: 3.43

4

- ・事業目的はおおむね達成されていると思われる。
- ・アンケートでは、満足した方が多く、目的は達成されていると思う。和室の不満や不便さはあるが、畳に座ることで和やかな雰囲気を作れたのではないだろうか。
- ・家庭での介護はどうしても閉鎖的、孤立しがちなことと思います。その中で、自分がやってきていることが正しいのか不安になることも多い事とおもいます。今回の事業では、話を否定するのではなく、共感の気持ちで受け入れることが前提だったようですので、成果は十分にあったのではないのでしょうか。

3

- ・参加者の心のケアを常に意識して、多様な事例や対処方法、参加者相互の支え合いなどを関係者や関連する機関と更に連携しながら事業を継続していくことが求められてくるのかなと思う。
- ・企画について大半の方が、満足とやや満足になっていることは、達成度は、高いと思います。
- ・アンケートをみると改善項目はあるので継続的にやるのであれば対応が必要。
- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】単発と思われるが、今後に期待したい。

(2) 学習・活動の深まりや新たな活動への展開が期待できるか

【評価】 **4**: 3名 **3**: 4名 **2**: 0名 **1**: 0名 **平均**: 3.43

4

- ・各自治会等、細かな広報により活動が期待できる。
- ・期待できる。今回の参加者から情報を発信し、新たな参加者が増えることを望む。
- ・今回の参加者で君津地区の方が4名いたことに少し驚きました。君津地区の方が今回のような機会が多くあるのだと思っていたからです。小櫃は近くはないがまた参加したいと思えていただいただけでも十分に価値のあることだとおもいます。君津や他の地区に同じような場があるのかは分かりませんが、介護者同士が気軽に話ができる機会が増えれば良いと思いました。

3

- ・(1)と同じ(参加者の心のケアを常に意識して、多様な事例や対処方法、参加者相互の支え合いなどを関係者や関連する機関と更に連携しながら事業を継続していくことが求められてくるのかなと思う)。
- ・いきいきとした高齢者が、増えることで認知症が減り公民館に集まる高齢者が増えることは期待できる。
- ・個々(あるいは全体車座ではなく)少人数に別けて丁寧にじっくり聞くやり方はどうだろう?しんどい時に意欲的に頑張ってる人の話は聞いてて負担になりそう。
- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】各サークルへの参加者を増加させる等の活動が必要と思われる。

4. 総評

- ・地域活性化の拠点としての公民館運営・事業のあり方を見出す取り組みを進めるためには、地域活性化につながると思われる地域の動き、人、団体・組織などについて情報を収集して整理し、有効または可能性のあるものを見つけ出して公民館とのつながりをつくることから始めて、その先で公民館とともに同じ方向を向いてそれぞれの立場で役割を分担しながら相互に支え合って地域活性化に向けた取り組みを進めてもらえるような仕組みが見いだせればよいと思う。
- ・高齢化進んでいるこの社会で、公民館活動でも必要であることを認識しました。
- ・全体的にはおおむね目的は達成されていると思われる。さらに各方面への周知によりこれからの活動に期待したい。
- ・君津地区の参加者が4名だったことから、自分の住む地区では、家庭のことを話すのは難しかったのかもしれない。小櫃・上総地区でも同様に戸惑うことが多いのではないか。今後の展開では参加者のプライバシーに細心の注意を払うことを望みます。
- ・介護問題は現代社会では避けては通れないことです。家庭介護の限界により、悲しい事件に発展してしまうことも少なくないでしょう。その前に今回の機会のような場を設け、孤立させない、自分一人ではないんだということを気付いてもらい、市や国の補助があるのであればそれらを知る機会となり、介護している側がつぶれてしまう前に少しでも楽になれるよう、この事業が継続していければと思います。

- ・【スマイルサロンいーね・ほほえみ学級合同】他のサークル活動に声掛けし、合同事業を達成する等、それなりに評価できると思う。
- ・オンライン解答(評価)方式ができて良かった。※3 振り返り項目は必要か？評価(記入しにくい)(1)は参加者アンケート解答の評価でよくないか？(2)展開が期待…は【2 実施内容】の(3)に？※結局曖昧な達成度3を選びがちになる☹️。

上総公民館モデル事業「みんなイキイキ！食の健康教室」外部評価まとめ

1. 見通し・計画

(1) 審議テーマに対して、事業の目的や課題設定は適切か

【評価】 4：4名 3：1名 2：3名 1：0名 平均：3.13

4

- ・高血圧の基礎知識については、非常にわかりやすい説明であったと思います。塩分量等について、減塩のヒントの中で、野菜摂取によりナトリウムの排泄を促すことや、野菜の摂取必要性の説明が細かくありましたので、勉強になりました。また、汁物については野菜を多く入れることで、塩分を控えることができることを知りました。事業の目的や課題は適切である。
- ・上総地区は高血圧の人が多く聞きました。また、アンケートで健康学習に関する講座の要望も多く寄せられているとのことで、今回の審議テーマはニーズにあっているものと思います。
- ・「高血圧」という言葉を用いたことで、市民の関心を高めることができた。講話から実習に続く設定もよかった。
- ・健康で長生きするということは今後大変重要であると考えます。自分でも意識し、改善できることは改善していくというきっかけ作りにはぴったりなテーマだと思います。

3

- ・健康(健康寿命)は中高年以上には関心が高く、興味のあることがらなので地域住民参加を募る事業として良いと思う。

2

- ・テーマに対する企画は、大変良いと思われるが、地区の人口等を考えると、やや厳しいと思われる。
- ・審議テーマの「地域活性化の拠点としての公民館運営・事業のあり方」のモデル事業として、アンケート結果から「健康」を取り上げ、「食」を通じて健康について考える機会とした経緯はよいと思うが、自治会回覧、公式 LINE、市の配信メール、チラシ配布からの応募がなく、他事業参加者等への声かけでやっと参加者が集まった実態を見ると、審議テーマに沿ったモデル事業の企画としては、公民館と地域のつながりが細いのか？意識にギャップがるのか？気になる点が見えている。
- ・審議テーマ「地域活性の拠点としての公民館・事業の在り方について」に照らし合わせたとき、健康をテーマにすると個人に対しての課題となり、少し狭いものになると感じました。

(2) 対象者の設定や周知方法は適切か

【評価】 4：4名 3：2名 2：2名 1：0名 平均：3.25

4

- ・高血圧に関する座学だけだと難しく少し堅苦しい感じがしますが、今回の食の健康教室では、講話と実習がセットになっており、実習では孫などと一緒に学びながらと言うことで、

対象者個人のみならず、家庭単位で健康や高血圧に関する興味、話題になりやすく良い点だと感じました。

周知方法は、声掛けや回覧、学校でのチラシ配布に加え、市のメール配信、公式 LINE のことで良いと思います。

- ・適切であったと思う。
- ・市ホームページ、チラシ他様々な手段を使っているのは評価できる。上総地区在住の友人に声かけした時に「子供が学校でチラシをもらってきた」と家庭で見ていると事業があることは認識していたので、情報は伝わっていると感じた。
- ・記入なし

3

- ・一般からの参加者募集は、非常に難しいものがあると思っていました。やはり、他事業参加者等への声掛けしかないのかなと思います。学校から参加者ができるようにしたいです。
- ・対象を高齢者の方だけではなく、お孫さんと一緒というところがよかったかと思います。孫や子との作業は、特にお年寄りにとっては、うれしいことと思います。人数的にはもう少し欲しいところですが、調理室が狭いので、たくさんの参加者の実施は不可能かと思います。

2

- ・対象者の設定が小学生という事だが、若すぎると思う。理解度がないと思われる。
- ・アンケート結果を事業テーマに反映させるだけでなく、更に講師等のスタッフの人選と合わせて地域の側にある関係者や関連団体にも事業の趣旨について情報を発信して関心を高め、参加を促すための連携した取り組み方ができればよかったと思う。

2. 実施内容

(1) 目的達成に資する内容になっているか（内容の充実度）

【評価】 4：6名 3：1名 2：1名 1：0名 平均：3.63

4

- ・高血圧についての知識が、非常にわかりやすい説明であり内容は充実していました。アンケート結果でも満足度の評価の通りではないか。
- ・2回に分けて行われたので内容は十分だと思いました。講話では今まで知らなかった話や、間違った知識、勘違いをしていたことに気付くことが出来とても参考になりました。
- ・充実度については、諸般の事情により、第2回（7/30）のみ参加させていただいたが、充実していたと思う。
- ・「健康」→「食」→「高血圧」とテーマを関連付けして、「高血圧の基礎知識」を事前の講座で丁寧に解説したうえで、次に日常的に各家庭で営まれる調理について、「食生活の大切さ」を解説した後に実習した事業の構成は整っていたと思う。
- ・今回は受講当事者として参加したが、個人的には「参加して良かった」と感じたので。
- ・座学だけでなく、食生活改善推進員との協力による調理実習は、今後の食生活において参考になると思います。

3

・塩分摂取量を意識した調理のため、それを補う調味料が多く使われていた。高血圧撲滅の目的には合うだろうが、日常生活で同様にできるか否か疑問が残る。

2

・公民館の1つの事業としてはよいと思いますが、「地域活性」という大きなものになると、少し物足りなさを感じました。「住民の健康な体作り」が「地域活性」につなげたいと考えるのであれば、やはり多くの参加がほしいところです。

(2) 講師の選定や協力者・関係者の広がり適切か

【評価】 4：4名 3：4名 2：0名 1：0名 平均：3.5

4

- ・両講師とも解りやすく、理解度も高いものがありました。又、講習を受けたいと思いました。
- ・保健師、管理栄養士さんはやはり専門家ですので話も分かりやすく、図や実際の食塩の量などを見せて頂きより分かりやすかったです。食改さんは色々な場所で活動されているらしく、当日もスムーズに実習が進んでいたと思います。
- ・食生活改善推進員の協力はとても良かった。優しい声掛けに、子どもたちは進んで調理できていた。調理前の説明も丁寧で良かった。
- ・記入なし

3

- ・資料はよくできており、講師の選定等は、適切と思われる。
- ・事業の展開に沿って情報を伝える側でかかわった講師は、保健師、管理栄養士、食生活推進員がそれぞれの立場で機能していた。
- ・講話→講師の方がわかりやすく話すべく内容を準備されていると感じた。
実習→ヘルスメイトの方々の下準備を含め、良くしてくださったと思う。
「広がり」？質問の意味がわからない
- ・調理実習の講師は人数も多く、手取り足取り指導ができ、良かったかと思います。講師の人数の多さが目立ちましたので、もう少し参加者がいたらと思いました。小中学校に広告を配付し、子どもたちからおじいちゃんやおばあちゃんにアプローチさせるのもよいかと思いました。

3. 振り返り

(1) 事業目的は達成されているか（参加者の反応などを踏まえて）

【評価】 4：4名 3：4名 2：0名 1：0名 平均：3.5

4

- ・事業目的は達成されていると思いますし、参加者の満足度調査アンケートでの満足度が多いことから達成されているものと思います。
- ・アンケート結果で、普段から塩分の取りすぎには気を付けている方が多い事を知りました。

いつもの食事より塩味が物足りなかった、うす味でもおいしいことが分かったと言う意見があることから、普段気を付けていてもいつの間にか濃い味付けや、お菓子などから塩分を多く摂取してる事に気づいた方も多くいたように思います。

実際私も実習で調理したタコライスをいただきましたが、味が薄いと感じました。塩分、味の濃いものを今まで食べてきたのかと気づかされました。減塩を意識する機会になりましたので良かったと思います。

- ・されていると思う。一緒に参加した子供(小5)は【成分表示】の食塩相当量をよくチェックしている。
- ・記入なし

3

- ・参加者については、事業目的は達成されていると思う。一般については不明。
- ・参加した人にとっては、2の(1)(2)に記したように参加目的を達成できたのではないかと思う。しかし、審議テーマに対するモデル事業としてみた場合は、1の(1)(2)に記したような点が気付きであり不足していたのかなと感じた。
- ・参加者は楽しみながら学ぶことができていた。但し、タコライスは和食ではないので、推進員から”塩味の比較を”と言われても難しいのではないか。
- ・「住み慣れた地元で元気に暮らしたい」というテーマにおいては、参加された方には、健康に対して改めて考える機会になったと思います。お孫さんたちも楽しそうに参加していました。

(2) 学習・活動の深まりや新たな活動への展開が期待できるか

【評価】 4：3名 3：4名 2：1名 1：0名 平均：3.25

4

- ・実際に行動や実践するのとは別に、知っていることと言うのは大事なことだと思います。子どものアンケート結果で、『もっと料理について知ろうと思いました』とあったのは良かったとおもいます。次の講座では小学生が対象との事で新たな展開に期待できると思います。
- ・期待できる。糖尿病など、他の病気を患う等、期待している。
- ・記入なし

3

- ・食育についても、学校の中で、栄養教諭とタッグを組み進めていけることを期待します。
- ・「健康」「食」をテーマにして地域とともに公民館事業を進めて行くのであれば、地域に在る様々な要素を関連付けてつなぎ合わせ、継続的に事業を展開していくことができれば、地域活性化につながる可能性があると思う。

※ 地域のある要素として思いつくもの(例)

食べ物(米屋、食品店、飲食店、造り酒屋)、健康・医療(医院、歯科医院、薬局)、
その他(君津青葉高校の食品系列及び家庭・福祉系列)

- ・新たな活動展開…に当てはまるかわからないけど大人二回参加条件は少しハードルが高い

と感じた。特に子供や孫の都合もあり一緒に実習に参加する事は困難かと。調理室の広さから多数で実習するのは厳しいので今回の人数で良かったと思う反面、講話はもっと多数の参加も可能だったのでは？とセット企画にしなくても良かったのではと感じた。

・健康に関しての他のテーマでの健康教室はできるかと思います。

2

・不明

4. 総評

- ・「みんなイキイキ！食の健康教室」について、非常に興味深いものがありました。7月30日の子や孫と一緒に調理実習に参加できませんでしたが、送付していただいた資料に詳細が解るものでした。
- ・今回の審議テーマである食の健康教室は良いテーマだと思います。2回に分けて行われる理由も理解できますし、子や孫と一緒に参加して実践調理することは素晴らしい考えだと思います。ですが、そのことが参加者が少なくなってしまう要因にも感じてしまいました。血圧の事は詳しく知りたいけど調理まではしなくても良い、またその逆で薄い味付けの調理実習だけやってみたいなど。良いテーマだと思いますので、今後に期待しています。実際見学していると、実習では、はじめは慣れない包丁も徐々に慣れていく様子や、楽しそうに調理している様子が見られ大変良かったです。
- ・広報活動の徹底が必要と思われる。上総公民館の出入口に事業の案内等のチラシなどが見られない。一般の関心度がひくいと思われる。
- ・地域活性化の拠点としての公民館運営・事業のあり方を見出す取り組みを進めるためには、地域活性化につながると思われる地域の動き、人、団体・組織などについて情報を収集して整理し、有効または可能性のあるものを見つけ出して公民館とのつながりをつくることから始めて、その先で公民館とともに同じ方向を向いてそれぞれの立場で役割を分担しながら相互に支え合って地域活性化に向けた取り組みを進めてもらえるような仕組みが見いだせればよいと思う。
- ・レシピに和食を使用し、材料を極力少なくする等、日常ですぐできる料理がよかったと思う。調理前の準備不足が見受けられた。
- ・公民館事業やイベントがあって、告知されているが参加する人、しない人の二極化が解消できない状況がある。
- ・健康で長生きするためには、食生活は大切なものと考えます。そのためには、時に個々の努力も必要になることもあると思います。今回の事業は、自分の食生活を見直すことができる良い時間になったと考えます。また、お孫さんと一緒なので、家族ぐるみでの改善に繋がる事業になったとも思います。
- ・現在、スマホやSNSの利用で対面しなくてもコミュニケーションとれる世の中になっています。その中で、公民館に足を運ぶ目的をつくるのは、難しいと改めて感じました。地域のお祭り、公民館の文化祭は多くの住民が参加しますので、難しいかと思いますが、住民の皆さんの興味関心のある事業を模索していくことが大切かと思います。審議テーマに照らし合わせ

ると狭いものかと感じましたが、このような小さな事業を積み重ねていくことが大切かと思
います。

何よりも地域住民の人口が減少している中での事業の実施は困難です。事業を実施した時に
参加者が10名だとして、全地域住民の100名中の5名なのか、30名中に5名なのかで
は、目的の達成度が違います。現在の世帯数、世帯の家族構成、年齢層などを調べ、どこにタ
ーゲットを絞って事業を展開するかを考えるのもよいかと思えます。